

災害時のボランティア活動について知ろう

－災害時の備え－

地震		
海溝型	種類	直下型
大陸と海のプレートで起こる	発生場所	大陸にある断層で起こる
東日本大震災 南海トラフ巨大地震	例	阪神・淡路大震災 上町断層帯地震
↓		↓
6弱	震度	6弱～6強

津波
鶴見区での津波浸水想定 1.08m 50cmの津波で車が浮く 1mの津波で人は100%死亡 (参考:あいちだよりのタテの長さ約30cm)

鶴見区の予想
建物の全半壊
木造:6285棟
非木造:774棟

阪神・淡路大震災で閉じ込められた家屋から助け出された人 約165,000人		鶴見区の人口より多い! (約110,000人)
そのうち		
自力で・家族に助けられた人	66.8%	98%の人が自分で、または家族・友人・近所の人によって助けられた
友人・隣人に助けられた人	28.1%	

復旧目安	(例)南海トラフ巨大地震
上水道	約40日
下水道	約1週間
電力	約1週間
ガス	約1ヶ月
通信	約1ヶ月

災害について
日頃から
家族・友人・
近所の人で
備えることが大切!

非常食は、水でもお湯でも作れるご飯を5年保存ができる保存水で作って試食しました。白米、梅がゆ、おこわなど色んな種類がありイオンなどの大きめのスーパーやホームセンターでの取り扱いが多いようです。



災害が起きると

- 被災により様々な生活の困りごとが発生するため、より暮らしに近い人の力が必要に…
(例)

がれきの撤去、泥出し、家財整理、荷物の移動、避難所の物資の仕分けや環境整備、通院補助、家事手伝い、思い出の品の洗浄や仕分け、子どもの遊び場作りや学習支援、災害ボランティアセンター(※)の運営など

- 年齢、性別、傷病の有無などに関わらず、誰でも困りごとを抱える
- 女性や子どもへの暴力が増加しやすい

印象的だったお話し

- 男性が物資の配布を担当しており、生理用品を必要とする女性が受け取れなかった
- 建物が倒壊し道が分からない状態でも、そこに長く住む人の土地勘に助けられた
- 安否確認や通れる道の情報など友人同士での情報交換の大切さ
- トイレが汚れていたり男女共用だと我慢する人が増え、体調を崩す原因になる
- 子どもの泣き声が心配な家族が学校の教室にまとまって避難したことで、泣き声がしても“お互いさま”で親の気持ちの負担を少しでも軽くできた

※災害ボランティアセンター

被災された方が元の生活に早く戻れるよう支援活動に来たボランティアの活動を調整するところ。
鶴見区は区民センターに区役所と区社協を中心に設置予定。※職員自身が被災し、人出が足りないことも…

災害時に必要なこと

自分たちで助け合い安心で安全な暮らしを回復させる取り組み

(災害時は道の寸断で孤立したり行政自身が被災したりして「公助」に期待できない)

自 助	自分や家族の身は自分たちで守ること
共 助	となり近所や同じ地域の人々が互いに協力し、助け合うこと ◎そのためには、話し合いと力合わせが必要不可欠 人それぞれの多様性(人となり、考え方、価値観など)を理解して 人それぞれの力(体力、知識、情報網など)を発揮できるように
公 助	国や都道府県、市区町村など行政機関や公的機関による対応のこと

ボランティアにとって最も大切な視点

『当事者目線で考える』

「被災者」じゃなく「○○さん」、「がれき」じゃなく「ご自宅」、「ゴミ」じゃなく「家財」

『何を必要とされているか』

「何をしてあげられるか」という視点ではない

『泥を見ずに人を見よ』

そこに人々の営みがあることを忘れないで